

Ⅲ 表現化に視点をあてた学習指導の展開

1 精神薄弱教育における学習指導の原則

従来から精神薄弱児の指導では、その行動や心理の特性から、いくつかの原則的なパターンが考えられ、実践されてきた。それらの原則は、極めて基本的で常識的なものであるが、列挙すると次のようなものである。

- (1) 具体的操作の原則 指導は子どもの体験的具体的行動を通して進められ、子どもの直接的な生活と結びついて定着が考えられるものであること。
- (2) スモールステップの原則 指導はできる限り抵抗の少ない内容をきめ細かく準備し、興味・関心・意欲を欠いて、ざ折感を味わわせることのないよう留意しながら諸能力・態度の定着をはかること。
- (3) 反復練習の原則 指導は理解させることだけでは十分ではない。くり返しの指導により、確実な定着・態度化をはかること。
- (4) 生活活用の原則 指導は子どもの生活の中で、そのまま生かされていくような工夫が、常に留意されていること。
- (5) 集団参加の原則 指導は人と人のかかわりを重視し、集団の中で諸能力が高められるような工夫されていること。
- (6) 個別指導の原則 指導は一人ひとりの子どもの生活経験・学習能力などの確にとらえ、個に応じた指導の徹底をはかること。

精神薄弱児の学習指導は、この原則により、一人ひとりの持ち味を生かして、意欲的に学習と取り組んでいくなかで、「生きて働く力（生活していく力）」を定着させていくことである。ここで学習指導の原則について述べた理由は、表現化に視点をあてた学習指導でも、従来からの指導と異なって新奇を追うものではなく、先に述べた原則に立って、従来からの学習指導を見直そうというのが、学習指導法と取り組んだ基本的姿勢だからである。

このことは現実の問題として、多様な子どもを前にして、「何を」「どのように」指導するかが、複雑な子どもの行動・反応を通して、十年一日の如く問題となっているのが現状である。

2 表現化と基本となる学習過程